

第8回 村岡新駅周辺地区まちづくり協議会 議事要旨

【日 時】	2025年（令和7年）12月5日（金）10:00～11:30		
【場 所】	村岡市民センター 3階 むらおかえのでんホール		
【議 題】	(1) 村岡新駅周辺地区まちづくりの推進体制について (2) 村岡新駅周辺地区的官民連携一体施設整備等事業（駅北側）について		
【出席者】	<市民代表>（敬称略）		
	渡場 清治	村岡地区自治町会連合会	
	鳥海 早苗	村岡市民センター選出	
	<地元地権者等>		
	林 岡治	土地区画整理事業区域	個人地権者代表
	沼田 稔	土地区画整理事業区域	個人地権者代表
	曾我 新吾	土地区画整理事業区域	地権者会議 法人代表 三菱商事株式会社
	<学識経験者>		
	中島 直人	東京大学 教授（会長）	
	<経済団体>		
	相澤 光春	藤沢商工会議所	
	三ツ橋 利和	藤沢商工会議所	
	<関係事業者>		
	日野 大助	株式会社 神戸製鋼所	
	渡辺 敬介	アイパークインスティテュート株式会社	
	若村 耕平	東日本旅客鉄道(株) 横浜支社	
	<藤沢市>		
	宮代 保之	企画政策課長	
	水野 郷史	産業労働課長	
	武内 直美	都市計画課長	
	飯田 健一	都市整備課長	
	<オブザーバー>		
	神奈川県		
	鎌倉市		
	独立行政法人	都市再生機構	
	<事務局>		
	都市整備部	都市整備課	
	(運営支援) 株式会社オリエンタルコンサルタンツ		

【資 料】

(資料) 次第

(資料) 委員名簿

(資料1) 村岡新駅周辺地区まちづくりの推進体制について

(資料2) 村岡新駅周辺地区的官民連携一体施設整備等事業（駅北側）について

内 容

(敬称略)

1 開会

事務局 それでは、定刻となりましたので、第8回村岡新駅周辺地区まちづくり協議会を開催いたします。本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

事務局 本日の会議の成立要件についてご報告いたします。開催に当たりましては、本会議の設置要綱第8条第2項で、会長及び半数以上の委員の出席を必要としております。現在、会長及び委員16人中13人、ご出席いただいておりますので、本日の会議は成立しております。

事務局 また本日の会議につきましては、会議録の作成のため、録音と写真撮影をさせていただきますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

事務局 それでは会議に先立ちまして、本協議会の主催者を代表いたしまして、額賀都市整備部長から、ご挨拶申し上げます。

額賀 本日第8回のまちづくり協議会となります。前回は8月に実施し、今年度としては2回目の開催となります。12月のお忙しいなかご参加いただき誠にありがとうございます。本日は次第に基づき、まちづくりの推進体制、官民連携一体施設整備等事業についてご説明をさせていただきますが、官民連携一体施設整備等事業につきましては来年度に公募を実施できるように準備を進めております。また先月11月3日には村岡市民センターにて、研究開発拠点に関するワークショップを開催させていただきました。中島先生をはじめ、渡辺様、日野様にもご参加をいただきまして、市民の方々と有意義な意見交換をすることが出来たと感じております。本会に置きましても、新たなまちづくりへ向けて、様々な意見を皆様からお聞きしながら進めていきたいと考えておりますので、本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

事務局 続いて、本日の会議資料を確認させていただきます。

本日お配りしております資料は次第、資料1、2となります。その他、村岡新駅周辺地区まちづくり方針、村岡新駅周辺地区まちづくりコンセプトブックをお手元に用意してございます。資料につきまして、不足等ございませんでしょうか。

事務局 続いて、委員に変更がありましたので、ご紹介させていただきます。藤沢商工会議所の竹村裕幸様がご退任され、前回代理でご出席いただきました三ツ橋利和様に、新たにご就任いただいております。引き続きよろしくお願ひします。

事務局 続いて会議の公開について、でございます。本会議は原則公開しており、このあとの議事は、設置要綱第8条第4項の非公開条件に該当しないため、公開したいと考えておりますが、会長いかがでしょうか。

会長 事務局より確認がありましたとおり、公開に関して皆様のほうでご意見等はございますでしょうか。特に無いようなので、会議を公開ということで良いと思います。

会長 本日、傍聴の方はお見えでしょうか。

事務局 本日、傍聴の方は2名いらっしゃいます。

会長 それでは傍聴の方にお入りいただきたいです。傍聴者はルールをお守りいただき、傍聴されるようお願い申し上げます。

事務局 それでは、これから議事の進行につきましては、設置要綱第7条第1項の規定により、中島会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 村岡新駅周辺地区まちづくりの推進体制について

会長 議事について、事務局から資料説明をお願いする。

事務局 (資料1 「村岡新駅周辺地区まちづくりの推進体制について」を用いて説明)

会長 資料1の説明について質問・意見等を伺いたい。

渡場委員 P1 「村岡新駅周辺地区における取組の経緯」では、新駅開業まで概ね8年という記載がされているが、これまで住民の皆様へは7年後に新駅開業と説明をしている。概ね8年後ということは、9年後にもなりかねないと考えられるが、事業の進捗を伺いたい。

事務局 資料上は令和6年度から8年後としており、現在から新駅開業は7年後を予定している。標記の仕方が分かりづらく申し訳ない。

会長 2032年が新駅開業予定で、変更なく順調に事業が進んでいると認識した。

渡場委員 了解した。

会長 第7回まちづくり協議会では、当協議会と新たなまちづくり組織の関係がどうなるか、という質問が多く上がっていた。前回は内容が固まっていなかったが、今回の資料では、見守り役として協議会が継続し、協議会とは別にマネジメント組織が立ち上がり連携する体制案がp.5に記載されている。体制についての感想や、各委員のイメージと合っているか伺いたい。

具体的には、マネジメント組織は、企画の立案や実行、デザインの協議等、委員会よりも実際に活動を行っていく組織として、資料2で説明する官民連携一体施設整備等事業とも関係していく。p.4では「多様な主体」とあるが、一つの主体が立場を変えて異なる組織に位置付けられることも考えられる。必ずしもそれぞれが独立した別の組織ではなく、一つの主体が立場を変えながら参画し、共創が進むことになるかと思う。

また、p.6に記載されている、「共創への展開」のイメージとして藤沢駅周辺地区エリアマネジメントの取組事例があがっているが、村岡での取組イメージと合っているか、実際に藤沢駅のエリアマネジメントに関わられている相澤委員に伺いたい。

相澤委員 共創という言葉の具体例かと思う。藤沢駅では毎週様々な形で開催し、様々な人と出会いが生まれていると認識している。村岡にどのような当てはめとなるか、まだ分からぬが、安心安全な大きな空間の確保が求められてくることが考えられるため、具体的なハード面の考えがあれば伺いたい。また「広がる創造」とも関連すると考えており、近隣に商店街がある立地を踏まえ、空間、賑わい、交流、人の出会いが生じることで、様々な事象が発生していくと思うので、その辺の考え方を伺いたい。

事務局 資料2の「どういう公募を行っていくか」に係る部分となる。広場空間として大きな空間が必要ではないかという意見について、現在、本会議室の窓の向こうに広

がる範囲（新駅北側）が、官民連携一体施設整備等事業を予定している北口空間となる。公共施設として整備を行う駅前広場もある一方で、官民連携一体施設整備等事業では「公共空間と一体となった民間広場」を含めた今後のまちづくりを提案いただき、出来るだけ多くの広場空間を取っていきたいと考えている。

また広がる創造、賑わい、交流という点については、新駅が開業し新しいまちづくりが行われていく中では、藤沢駅とは異なった賑わいとなることを想定している。研究開発拠点を中心とした賑わいのあり方を詰めていきたいと考えている。

藤沢駅周辺地区のエリアマネジメントでは、広い空間のなかった駅前デッキに、空間が整備されたことで初めて活動が可能になった経緯がある。空間と使い方が関係している事例であり、本資料で提示されている「共創への展開」と「空間の誘導」は、運動や並走が重要と考えられる。空間が先に整備される事例が多いなか、村岡では実際に空間を使用する組織やグループが育ち、使い方を議論しながら、並走して空間を作ることが出来ると良いと考えている。

賑わいについても、研究開発拠点であるため、藤沢駅とは異なった賑わいとなると思う。藤沢駅は商業施設があり、ミュージシャンなどが活動している素敵な風景だが、村岡においては、コンセプトブックのとおり、創造性を育むための賑わいを追及し、藤沢駅とは異なる光景が出来ればよい。

会長 体制に関して、まちづくり協議会は、まちづくり組織が立ち上がった後も、コンセプトブックが実現できているかを見守る役割として継続、連携していくものである。また、まちづくり組織（マネジメント組織）はソフトとハードの両輪で連携させながら進めていくことになると思われる。まちづくり組織で誰が中心となるかは未確定な部分もあるため、事業進捗に伴い、詳しい組成等について、協議会で意見を伺うことが今後出てくると考えている。それでは、体制の考え方については、了承をいただいたものとする。次の議題2でも、体制に関わる意見があれば伺いたい。

(2) 村岡新駅周辺地区まちづくりの推進体制について

会長 続いて議題 2 の説明を、事務局にお願いする。

事務局 (資料 2 「村岡新駅周辺地区の官民連携一体施設整備等事業（駅北側）について」を用いて説明)

会長 それでは官民連携一体施設整備等事業について、全員から意見や感想をいただきたく、順番に発言をお願いしたい。

渡場委員 深沢と比較した際には、駅前の空間がそれほど大きくないと考えられるため、立体的な広場等、有効活用をしてもらいたいと考えている。また、先日湘南アイパークで開催されたウェルビーイングフェスタを見学させていただいたが、企業の活動内容が、日常的に住民や来訪者、働く人の目に留まるような、情報発信ができる空間を確保していただくことで、尖る創造や研究開発拠点のイメージが生まれてくるのではないかと感じた。

会長 村岡新駅周辺地区 7ha のうち、まちづくりに活用する用地は 3ha 程度である。深沢と異なり狭い空間に多様な機能を入れる必要があるため、有効活用するためには、しっかりした開発計画が必要である。また「駅前だからこそ情報発信を行って欲しい」という意見は、公募の中でもかなり重要な部分であるため、公募要件で強調していくと良い。

鳥海委員 先月公開された新駅の完成イメージ動画を閲覧し、市民の期待度が高まっている。本日の資料で北側の駅前広場はイメージが湧いたが、南側はイメージが湧かない。鉄道、バス、タクシー、駐車場、駐輪場、送迎車等の各交通モードのスペースを確保しながら、公共空間を整備すると記載されているが、北側と比較して南側は規模が小さいことを懸念している。北側と同様の整備を規模縮小して行うか、北側とは全く異なるものになるか、教えていただきたい。

事務局 JR 東海道線の新駅における南口駅前広場であるため、一定の利用者数が見込まれている。バス、タクシーの発着場、一般車の乗降場等も南口駅前広場に整備していくと考えている。深沢地区へつながるシンボル道路と繋がる形で南口にも駅前広場を整備したいと考えている。

会長 あくまでイメージだが、コンセプトブックの p.43 にイメージ図が記載されている。実現するか否かは地権者の方々の考え方によるが、地権者が個別に整備するだけでは整備が難しく、ある程度の共同化が必要と考えられる。また資料 2 の官民連携一体施設の整備はあくまで北側を対象としている。一方、議題 1 のまちづくり組織は北側だけでなく地区全体を対象としており、北側と南側が連携して共創の仕組みをつくり、運営することが考えられる。

林委員 自然、歴史の条件を特に生かしてほしい。鎌倉幕府よりも前から村岡の周辺はひらけだしている。縄文時代に生きていた記録も残る、歴史ある地域であるため、自然と歴史を活かした提案となるよう考えていただきたい。

会長 頂いた意見はコンセプトブックにおいても重要と整理されているため、公募要項の中でも重視して欲しい。村岡ならではの「ここにしかない自然や文化」を活かす

ことが重要である。

沼田委員 北側地区の官民連携一体施設事業のなかで、北側と南側の連携をとっていただきたい。南北を線路が分断しているため、北側地区の官民連携一体施設事業では、つながりを重視し、南側を上手く取り入れた整合的な空間を整備いただき、北側と南側の交流がとれる施設を希望する。

会長 官民連携一体施設事業は北側の事業となるが、「南側へ繋ぐアイデア」や「南側との連携方策」が、公募条件の中で大事になることをしっかりと伝えることが必要である。

曾我委員 第7回まちづくり協議会の場で話したとおり、情報共有を図っていきたいと考えている。11月29日に湘南アイパークで開催されたウェルビーイングフェスタには当社も参加し、アンケートで様々な意見や感想をいただくことが出来た。

また当社も協賛している取組として、湘南アイパークは11月にボストンでイベントを開催しており、海外の主要な方々が湘南アイパークを認識していることを実感した。11月末にボストンラボと連携が結ばれたということで、去年の韓国に引き続き、今後ますます海外から来訪者がこのまちに入ってくることが想定される。地域の方々と共にどのように迎え入れるか、地域の賑わいや活性化とどのように共存していくか、議論をさせていただきたい。

産業と住民は「駅を使用する」という点が共通しているため、協議会の場で意見をいただきながら、湘南アイパークのフェスタにも活かしていきたい。また実証実験等の様々な取組を率先して進めていきたいと考えており、忌憚のない意見をいただきたい。

会長 11月29日のウェルビーイングフェスタに参加したが、村岡が目指している「広がる創造」のデモンストレーションを見ることが出来た。普段は活動内容が見えづらい湘南アイパークが、実はボストンと直接繋がっており、村岡という地域がボストンという世界の最先端と直接繋がっている点は「尖る創造」という点で重要である。創薬のエコシステムも村岡新駅の大事な資源である。

若村委員 鉄道事業として村岡新駅の建設を、2032年の開業へ向け予定どおり進めている。一方、開業時に周辺状況がどのようにになっているかは課題感を持っている。新駅開業時に、利用客が村岡の交通を便利に使うことが出来るよう、全体的な地域交通として二次交通を含めて整備されている状況にしていただきたい。また、当社の方が先に駅舎を作り始めているため、デザインや空間の作り方に關して、利用客が一体的に利用できる空間が南北にあることが望ましい。本日議論されているとおり、現在は北側が分かりやすく進捗をしているが、南側の駅前広場や鎌倉市の深沢地区と連携した空間づくりについて、コントロールやデザインがされたまちづくりを進められたら良いと考えている。

会長 東日本旅客鉄道株式会社は官民連携一体施設事業に係らざるを得ないため、共創パートナーの1つとして、駅と駅周辺の一体的な連携へ向けた協力をしていきたい。

渡辺委員 はじめに先日のウェルビーイングフェスタを無事に開催出来たことについて、感謝を申し上げる。今年度のイベントは7年前の湘南アイパーク開所以降、前身のMaaS実証実験を含めて5回目の開催となった。

当時から活動に賛同いただいた三菱商事株式会社、横浜国立大学、湘南鎌倉総合

病院と連携しており、これまで湘南アイパークや賛同企業から住民に提案を投げかける形であったが、近年、ファンが増えていただけている気がしている。

資料2のp.4でプレイヤーと記載されているが、関わる人は例外なくプレイヤーであり、自分事としてまちと一緒に作っていく場に、湘南アイパークも提供できたら良いと考えている。今後も皆で作り上げることを目指し、5月のアイパークフェスタと11月のウェルビーアイナーイングフェスタを日常化できると良いと考えている。

また「尖る創造」の「尖る」は、最先端の機器を設置しているというより、その機器を扱うことができる人材や研究者が新しい時代を創り、それを周囲が支えるという構図であると考えている。今後世界中から人材が集まった際に、受け入れることができるまちづくり、ソフトの部分があると良いと感じた。

会長 公募する際に、応募企業がまちづくりの理念を理解しているかが一番大切である。施設整備、運営等の個別の話よりも、共創の理念をどの程度深く理解して具体的な提案にしているかを問う必要があると思った。

日野委員 官民連携一体施設整備等事業は駅北側の話でうらやましく感じる一方で、駅南側も当社が頑張っていかないと認識している。10月10日に神鋼祭を開催し、6年ぶりに地域住民に来訪いただいた。特に子供に多く来訪いただき、研究開発ロボットに興味を持っていただくことができた。安全上動かすことが出来なかつたため来年度以降は体験が可能な企画としたい。また、駅南側の資源の一つとして兜松があり、シンボル道路関連工事が1月から予定されているが、擦り付け方法を都市整備課と協議している。通行者が兜松を観覧できるよう、神戸製鋼所の敷地内であるその周辺に緑地を整備する計画を検討している。兜松だけということではなく、ほかにもまちづくりに関わるよう検討していきたいと思っており、駅南側も忘れずに藤沢市から指導と支援をお願いしたい。

三ツ橋委員 藤沢駅の事例を見ても、駅により南北の分断が生じることが懸念される。南側と北側ではなく、一体的に進めていくことが重要と考える。駅南北でそれぞれ建築を進めてきたことが藤沢駅の特徴と感じており、村岡新駅の研究開発拠点の公募条件を整理したうえで募集を行っていくことは良い取組であると感じた。

一方で昨今の物価上昇を踏まえ、企業採算等を考えるとどのような応募があるか、見守っていかないといけない。企業は採算性が確保できるマンションを選択しがちだが、それだけではなく、村岡駅周辺では研究開発拠点の方向性のもとに、ゆとりある安心できる駅になって欲しいという思いを個人的には抱いている。

会長 まさしくコンセプトブックに記載されている部分である。まず研究開発拠点としてのまちであるため、それを一番大切にする必要がある。個人的な意見ではなく皆の相違だと認識している。

相澤委員 全体的な話として空間づくりが挙げられる。空間の広さの問題もあるが、歴史や文化、緑が感じられる空間を作る必要があると思う。総務省の発表によると、2025年の年齢構成は1位が50代（868万人）、2位が60代（786万人）、3位が40代（760万人）となっており、新駅が開業する7年後やその後10～20年後は人口が減って高齢化が進行する。人口構成の変化を想定しながら、使う人を含めて楽しく、来訪者に喜ばれる何かを考えないといけないと思う。寄ってもらい、生活してもらいたい、住んでもらうことを考えない限りは、理想どおりには進まないようを感じた。

情報発信の点から研究開発については、鎌倉や江の島などの近隣だけでなく、小

田原などへ向けた情報発信の基地として、もう少し広域的に捉えて考えないとまちとしての魅力が薄れてしまう。

また、将来的な人口構成の懸念を踏まえ、使い方に幅を持たせられるように、広い広場をつくる必要がある。最初にどれだけ準備できるかがポイントであると思う。

会 長　近視眼的にならず 10～20 年後を見越して対応できるような空間づくりを考えないと陳腐化してしまう。高齢化は必ず生じる課題であるため、10～20 年後のまちを考える必要がある。また現在は村岡と深沢の範囲で検討しているが、もう少し広い視野の中で場所の魅力を位置づけ、情報発信に還元していく必要があると認識した。事業が開始すると中だけを集中的に考える傾向にあるため、視野を広く持つ必要があるということだと思う。

官民連携一体施設整備等事業について様々な意見が出てきている状況にある。空間が狭いからこそ広場が重要であること、村岡の自然と歴史を活かすこと、北側事業だけでなく南側とのつながりを考える必要があることについても公募要件内で強調していただきたい。

藤沢市の委員からも公募要件や、都市計画変更も含めて、今回、案が示されていると思うので、それぞれの立場から意見や留意事項を伺いたい。

宮代委員　企画政策課の立場からというわけではないが、本日の意見を伺い、それぞれの立場からの村岡の魅力向上をどのように具体的に作り上げていくかという点を感じた。資料内では先日の機運醸成イベントのワークショップ結果として、村岡のブランド化や、担い手育成の推進という項目が記載されており、「村岡地域をどのようにブランド化していくか」という本日の議論につながっている。藤沢市としても 6 つの都市拠点の 1 つと位置づけを行っている中で、最終的にブランド化を図っていくことができれば良いと感じた。必ずしも派手なイメージのブランドに限らず、研究開発拠点としての性格や、居住者にとって魅力のある土地としていくことも合わせ、広い意味でのブランド化という議論が出ていたため、そのあたりをキーワードに何ができるかを考えていく必要があると感じた。

水野委員　本日、駅前広場の空間が議論に上がっていたが、産業労働課としても駅前に空間があることが大きいと考えている。空間があると常に新しいイベントを呼び込んでくることが出来る一方、空間が無いと後から対策を打つことが難しい。本日の議論で多数意見があがったが、経済部としても非常に重要なものとして捉えている。

また、研究開発拠点の高度人材として、外国から既に多数の方が来訪していることが本日うかがえたが、藤沢市はオリンピックの時に外国人の受け入れに向けて様々な対応が必要となった経緯がある。神奈川県と連携し、多言語化やトイレの再整備、おもてなしの体制づくり、両替センターの整備等、様々な取組がオリンピックを契機に進んだ一方、今後さらに外国人が増えていくことが見込まれる中で、行政組織としては外国人対応に不明な点が多い。事業者の皆様からは、外国人対応としてまちに不足している内容について、引き続き意見をいただきたい。

武内委員　本日の議論を伺い、コンセプトブック検討時の思いを改めて思い出した。一方、事務局案として都市計画変更案のイメージが p.11 に示されているが、都市計画課とは今後調整がされていくものである。都市計画の変更（用途地域の変更）を行う際は、変更する必然的な理由や、藤沢市全体の都市計画を見据えて検討することとなる。まちづくり方針、まちづくりコンセプトブックと併せて今回示された施設整備の条件を踏まえると、現状の用途地域では実現できないとは示されていない。ただ

し、これは都市計画を変更しないというわけではない。まちづくり方針やコンセプトブック、競争的対話を進める中で、具体的なまちの姿に対して、協議会から意見をいただいたうえで、都市計画には専門的な知見も必要となるため、最終的には藤沢市の方で取りまとめていきたい。まちづくり協議会の場では、具体的な用途地域の変更案を議論いただくのではなく、どのようなまちにしたいか、具体的なまちの姿につながる意見をいただきたいと考えている。

会長　あくまでイメージと書いてあるとおり、「どのようなまちであるべきか」が議論され、ふさわしい用途地域を決めていくこととなると思う。

資料2のp.11では新駅北側は現状では紫色（準工業地域）となっているが、変更の可能性は考えられ、庁内調整で決めていくことである。

協議会は用途地域の細かい内容まで議論する場ではないため、都市計画の変更の可能性があるという旨を共有したということかと思う。

飯田委員　先ほど時間軸という議論もあったが、7年後に新駅開業を控えた中で公募条件を整理し、事業者に手を挙げていただけるかという段階にきている。自然、南北の連携、限られた空間の有効活用、空間の使い方を同時並行で進めるという点を視野に入れ、尖る創造、広がる創造の理念を大事にしながら、本日の議論を参考に、公募要件を整理し事業を推進していきたい。また本日はUR都市機構、鎌倉市、神奈川県の関係者にもお越しいただき事業が進捗しているが、事業だけの視点だけでなく、広く見ながらバランスよく進めなければと考えている。

会長　飯田委員の発言で本日の議論がまとまったと感じた。自然や歴史、南側とのつながり、狭い中でも皆が活動できる広場空間が議論に上がり、広場が拠点となることは皆イメージとして共有出来ているので、そのような広場をしっかりと作ることを公募要件に入れていくことが大事である。

本日の会場からは旗立山を眺めることができるが、この場所で議論することで、このまちの豊かな自然、ダイナミックな景観が活かされないといけないと責任を感じる。駅北側に壁のような施設を建設してしまうと、北側から旗立山の景観が眺められなくなることが懸念されるが、そのような事態は避けたいと考えている。具体的な地区に落とし込んで公募要件を考える必要があり、公募要件としてあらかじめ提示することで、事業者としても提案を行いやすくなることが考えられる。自由度と大事な要素をバランスよく公募要件に記載することが大事である。これまでコンセプトブックから議論を行い、大事な要素は共有できているため、公募要件の整理を再度見直していただきたい。北側整備事業は官民連携一体で行う方向性とし、今後は公募要件を定め、公募事業者と一緒にまちづくりを進めていくことについては、異議なく納得いただけたと捉えている。今後は事務局で具体的な公募の話を進めてもらえばと思う。

(3) その他 村岡新駅周辺地区における活動等の情報共有

会長 第7回まちづくり協議会では、まちづくり協議会を議論の場としてだけでなく、各委員が村岡に係る中で情報共有を行う場としても活用したいという話があった。既にお二方から情報共有をいただいたが、他の参加者からも情報共有すべきことがあれば伺いたい。

渡場委員 村岡のブランドという議論があったが、村岡には大きな夏祭りがある。天嶽院の場所を借りて、天嶽院と周辺の10自治会町内会の共催で行う盆踊り大会が開催されており、一晩で村岡地区の人口の約10%の住民が参加している。遊行寺の踊り念仏のような地域のお祭りにしたいと考えており、他の地域と比べて自慢できるところである。

会長 まちづくりの成功指標として、駅周辺のみが賑わうだけでなく、周辺地域のお祭り等が今以上に盛り上がるとなれば良いと思う。お祭りの時期を伺いたい。

渡場委員 9月初週の土、日曜日である。

会長 来年是非伺いたい。他の参加者で情報共有事項はあるか。

渡辺委員 研究開発拠点の中心として製薬と鉄鋼では研究内容が大きく異なるが、共通点を探ると、この地域の方々の健康長寿に貢献したいという思いを両社持っていると、神戸製鋼所の日野委員と議論している。そのような思いを持ってウェルビーイングフェスタの内容を企画しており、地域の方々の健康長寿に資する新たなイノベーションを生み出せる人材が、集まる仕組みづくりをしている。そのようなことも発信していきたいと考えている。

会長 先日のワークショップにおいて、「泊れる研究所」という提案を行った参加者の方がおり、一般人が研究施設に宿泊し体験することができるという点が、ジャストアイデアではあるが面白いと感じた。地域の人と来街者が接点を持つことで様々なアイデアが生まれることは、新しいまちづくりに重要である。本アイデアは偶然発見して面白いと思ったが、同様の新しいアイデアが沢山出ていたことが印象的であった。様々なプレイヤーが今後入ってくると思うので、多様なアイデアを取り込む、包容力のあるまちづくりがあると良いと思った。

日野委員 当社のコマーシャルが関東地区の「news every.」「シューイチ」で放送されており、好評をいただいている。藤沢で撮影を行っており、藤沢でこのような溶接事業を行っていることに驚いたというコメントも多く上がっており、藤沢のブランドに少しでも貢献できればと思う。

会長 村岡におけるまちづくりの関連情報であるが、現在はそのような情報が集積し発信できる仕組みが無いため、発信できるものが欲しい。情報発信拠点を形成する以前に今の段階から可能な取組であると感じている。既に村岡と関連することが様々起こっているため、まちびらきのプロセスの中で情報公開を行っていくことで、プレイヤーが育つと思う。

事務局 本日の会議の議事要旨は、ホームページ等で公開となる。後日、事務局で作成した議事要旨の案を委員の皆様に送付するため、ご確認をお願いしたい。

会長 以上で議事は終了のため、事務局にお返しする。

事務局 次回第9回の会議は、時期は未定であるが、都市計画変更や官民連携一体施設整備等事業の進捗に合わせて開催を予定している。開催前にあらためてご連絡させていただく。

4 閉会

事務局 それでは閉会にあたりまして、額賀都市整備部長からご挨拶申し上げます。

額賀 本日は長時間に渡り闊達なご意見をいただき、ありがとうございました。本日の議論の中では、空間の広さの問題や緑の問題、歴史・文化を継承できるまちにして欲しいという思いや、一方で企業の新しい試みについて、お話を伺うことが出来ました。委員の方から意見が挙がったとおり、世の中的には様々な事業が順調に進んでいない中で、現在JRさんに進めていただいている事業は順調に進んでおり、我々のまちづくりも追随して進めるように、工夫をしながら進めていきたいと考えています。

また公募についても、準備を進めている状況と説明しましたが、公募に参加いただける事業者が、自由に新しい提案をしていただけるような公募要件を作っていくたいと考えています。守っていただきたい重要な部分は明確にしながら、広く新しい提案をいただけるような公募要件の設定や都市計画にしていきたいと考えています。本協議会も市から関係部局が参加しており、市としても非常に重要なプロジェクトであるため、市一体となって進めていきたいと考えています。今後とも皆様のご協力のほど、よろしくお願ひします。

事務局 以上をもって、本日の会議を閉会とさせていただきます。

(了)